

【はじめに】

この話は、卒業式の式辞では取り上げなかった話題です。卒業式では、「こうあってほしい」内容を話しましたが、ここでは、「こうなってはならない」という話をします。この卒業のタイミングで是非伝えなければならない内容であり、強い思いを盛り込んだメッセージです。少し長く、難しい内容ですが、人生において、君たちが決して踏み込んで서는ならない領域の話であり、ふとした気の緩みや弱みを見せたがために、一つの過ちでも君たちの人生が台無しになってしまいます。就職する人も進学する人も、特に、一人暮らしをする人は、注意・警戒をしてほしいと思い、書きました。

国語が苦手で一度読んだだけでは内容がよく理解できない人、人の話を聞くのが苦手だと思っている人、物事を覚えていることに自信のない人は、何度でも読んでよく理解してください。また、比較的気が弱いと思っている人や、自分のことを自分で決められないと自覚している人は、おそらく人の言葉に影響を受け、簡単に騙されやすいと思われますので、特に注意してください。君たちには、なんとか幸せな人生を送ってほしいという思いで、これを書きました。

この1か月ほどでだんだん解明されてきた一連の詐欺・強盗・殺人関連のいわゆる「闇バイト」の話です。犯行の実態やからくりを説明し、若者は、何がきっかけだったのか。どうやって犯行に加わっていったのか。では、どうすればよかったのかななどを語ります。

【詐欺・強盗・殺人事件】

「ルフィー」と名乗る指示役などで構成される犯行グループが、フィリピンから若者に携帯電話で指示し、オレオレ詐欺や振り込め詐欺、さらに個人宅や店舗への強盗、ついには殺人まで犯させてしまった。自分たちの手は一切汚さず、弱い人間の気持ちを遠隔で操作し、ある種のマインドコントロールしながら、金儲けのためには人殺しもなんとも思わない犯行グループである。ちなみに、「ルフィー」とか「バイト」などと、あたかも軽い話のような印象を与えているが、凶悪な強盗・殺人グループであり、捕まれば刑務所行きで、一生「犯罪者」という烙印を背負っていくことになる。

【詐欺事件】

詐欺事件の初期の段階では、孫のふりをして、電話で「オレオレ」と言って、老人をだまし送金させていた。次に「劇場型」の振り込め詐欺事件になり、孫が悪い人に騙され借金の返済に困った状況をでっちあげ、風邪を引いた振りまでして、年寄りに金を振り込ませた。受話器の向こうから孫の苦しげな声を聴くと、孫をかわいく思うおばあちゃんたちは銀行に急行した。犯行グループは、携帯電話で孫の深刻な事件だから他の人には相談してはいけないなどと口止めをしながら、言葉巧みに指示しATMに向かわせ多額の金を指定口座に振り込ませた。あるいは、警察役の者がカードが不正に使われているなどと電話をし、銀行員役が家を訪問し、玄関口で通帳やキャッシュカードは偽物かもしれないので調べる必要がある

などと言ってカード類を封筒に入れさせ、そして封をするために印鑑が必要と言って家の中に戻させたときに、別の封筒にすり替えるという手口などもあった。警察官、銀行員、「受け子」などの巧妙な手口でだまし、「受け子」は外に出ればタクシーまで用意されており、「出し子」が銀行に直行し金を引き下ろした。しかし、その後、警察の捜査が進み、「出し子」が防犯カメラ映像から突き止められ、逮捕されるようになった。また、銀行が一度に引き出せる金の上限を50万円に抑えたことでも詐欺を徐々に防ぐことができるようになったのである。

振り込め詐欺事件で、キャッシュカードで金を引き下ろす「出し子」は一回につき1割の5万円を手にすることができ、カードを2枚手に入れば10万円になり、年寄りが盗まれたことに気づくまでの時間を長く稼げれば、次の日にもさらに10万円手に入る。このゲーム感覚が落とし穴で、罪悪感を持たずに犯罪をくり返してきた。どんな場合もそうであるが、物事はエスカレートし悪質になっていくものであり、軽いつもりが、詐欺に加担し、強盗や殺人まで行き着き、最後には警察に捕まり、人生のどん底に落ちるまで止まらなかった。

【強盗事件】

一連の事件は、ここ数年で金を稼ぐ動きが直接的で過激になってきた。振り込め詐欺のような人数が必要で手間のかかる作業をやめ、アポ電、レンタカー運転、下見、見張り、突入、強盗と直線的になってきた。また、闇で出回っている名簿には、高齢者の財産や貯金高や住所の他に、一人暮らしかどうかや通販の履歴、高額商品の購入履歴なども載っており、宅配業者を装って侵入したケースもある。このように、確実に金を持っている人から直接金を奪う強盗に替わってきた。この場合、家に押し入る人数は3人程で、以前に比べ手取り早いことがわかってきた。また詐欺同様に、事前に親切そうに電話をして相談にのり、お金を銀行に入れておくと不景気で銀行がつぶれた場合に戻ってこないのだから家に置く方が安全だなどと実に言葉巧みに不安をあおり、親切心で助言しているかのように話すのである。そしていよいよ金があることを確信するとその家に押し入るのである。

詐欺の時同様、指示役は遠く離れたフィリピンから指示をするだけである。「騒ぐなら殴っていいよ。」とか「言うことを聞かないなら殺していいよ。」などと平気で指示を出す。人が苦しむ様子や顔を実際に見ていない指示役は、金のためなら簡単に冷酷に指示が出せる。実行役の若者が迷っていると、時間がないぞなどと脅迫観念を煽り、従わざるを得ない状況に陥れるのである。

【なぜ、若者は泥沼にはまっていくのか】

最初のきっかけは実に軽い。SNS上には「高額バイト」「高額報酬」などと堂々と広告が出ており、興味本位で検索してみると、すぐに電話がかかってくる。非常に身近なところに犯罪の入り口があるのだ。また、実行役を集めるリクルート役は居酒屋などで「お金に困まっているの?」「借金あるの?」などと実に軽く、いい人の振りをして近寄ってくる。挙句の果てに相談にまで乗ってくれて、軽いノリで「いいバイトしない」と言われるとつい気を許してしまう。自分が失敗したり、金がなかったり、本当に弱

いい状態になっているときに、心の隙間にはいってくる。世間を知らない純粋な若者は、いい人を演じられると簡単に信じてしまう。そこが絶妙で、最初は、悪いことだなどとは微塵も感じさせないのである。学生では考えられないほどコミュニケーション力が高く、実に巧妙。また、最近の若者は気が弱く、コミュニケーション力も低いので、断る技術もなく強引に押し切られてしまう。

「いいバイト」へと誘った時には、最初の報酬は1万円程度で高額ではないために、「警戒していたけれども犯罪とは無縁だ。」と思わせるテクニックを使っている。軽い仕事から始まり、そのうちに高額なバイトになると、引き換えに身分証明書やマイナンバーカードのコピーや下宿・家族の住所や電話番号まで教えさせられ、ここから真綿で首を絞められるがごとく相手の術中にはまり、身動きができなくなっていく。

また、ある日突然、夜中に電話がかかってきて、考える余裕や余地を与えずに、すぐに下宿の近くに車が行くから他の2人と一緒に現場に行くよう言われる。ここでも、金に困っていて気の弱い人は断り切れずに、気が付けば犯罪に手を染めてしまう。また、電話口で答えを躊躇していると、もう一人候補がいるから早く決めてと迫られる。優柔不断な人はパニックになり、行く決断をさせられてしまう。そして、どこで何をするかも教えられずに、現場に連れていかれ、そこで強盗や殺人までさせられる。

強盗事件の場合、最初は車の運転や見張り役でも、そのうち家の中を物色、家の人を粘着テープで縛る、口に粘着テープを貼ったりするなどエスカレートし、究極では、騒げば殴っていいとか殺してもいいとなる。事前の調べで自宅に3000万の大金を持っていることがわかっているケースなどでは、見つけられなければ指示役も焦ってくるので、是が非でも金を奪うために、簡単に口を割らない相手に暴力を使うよう指示される。こうなると冷静な判断ができなくなっており、逆らうこともできない。

別のケースでは、夜中に突然電話がかかってきて、レンタカーで現場に連れていかれ、店に侵入してショーケースを割って時計やカードを盗む仕事をさせられる。現場で躊躇しようものなら、「早くしないと警察が来てしまう。」と脅迫し冷静な判断ができないような状況に陥らせ、犯行を実行させられる。常に「恐怖支配」を受け、マインドコントロールされている。また、警察に踏み込まれた場合、数回やっている者は素早く逃げることができるが、初心者になると戸惑い、捕まってしまう。しかし、犯行グループの指示役からすれば、実行役は単なる捨て駒としか考えておらず、トカゲのしっぽ切りでしかない。

【どのように、マインドコントロールされるのか】

初期の段階では優しい言葉に騙され、次第に、高額な仕事になり、引き換えに、身分証明書やマイナンバーカードのコピーを渡したり、下宿・実家の住所・電話番号を教えてしまう。したがって、これを抑えられると身動きがとれなくなり、家族に知られたり、家族に危害を加えられると思うと従わざるをえなくなるのである。そして、犯行グループから抜きたいと

泣き言を言った途端にリクルート役の男の態度が一変する。優しい言葉が脅迫の言葉となり、家族・知人、学校や勤務先に知らせるなどと脅してくる。マインドコントロールと言うより、「恐怖支配」「脅迫支配」であり、弱みを抑えられているので次々と仕事させられ、犯罪の程度も激しくなる。思いきって警察に自白する勇気があればいいのだが、できずに、結局警察に捕まるまで犯罪を続けることになる。なお、「警察に話せば、また警察で黙秘しなければ、粛清だ」などと脅されることもある。皮肉な話だが、3年前にタイで36人の「かけ子」が摘発された事件があったが、その中に、警察に捕まった時になぜかほっとしたと複雑な本音を吐いた若者がいた。

また、若者は優しい言葉で指示役やリクルート役と1対1で相談や対応を受け、他に相談しないように言われる。周囲との遮断はマインドコントロールの常套手段である。さらに、裏切ると袋叩きにされるなどと、ことあるごとに恐怖支配を受け、洗脳され、マインドコントロールを受ける。タイのアジト内で一人の「かけ子」がいなくなったときには「あいつは目をスプーンでえぐられ、体は細かく切り刻まれ、その肉は豚の餌になった」などと聞かされたそう。これが本当かどうかは疑わしいが殺されたことは確かなようである。さらに、警察に捕まった時の対応まで指示され、「これなら逃げ切れる、大丈夫。」と錯覚をしてしまうそうである。指示役はとにかく言葉巧みに実行犯の若者を操作する。また、下宿や実家にまで不審な人物が訪ねてきて、監視されていることを意識づけ、さらにそのような役割の人間まで雇っているようである。

【なぜ、安易に信じてしまうのか】

若者が簡単に信じてしまう点の一つに、「秘匿性の強い通信アプリ『テレグラム』を使っているから通話記録はすぐに消えるので、絶対安全。大丈夫。」と言われ、簡単に信じてしまう。また、甘い言葉に引っ掛かるような人間は卑怯なものが多く、見つからなければいいかなどという安易な気持ちを持ってしまう。しかしながら、日本の警察を甘く見てはいけな。これだけ世の中に防犯カメラが氾濫し、また携帯電話の通話記録を消去しても復元できる技術をもってすれば、さらにAIが進化し顔認証などが進んでいる時代に、世界中どこへ行っても、見つからずに逃げ切れることはない。悪いことができるはずがない。とにかく、決して甘い言葉に乗ってはいけな。何度もうが、所詮、犯行を実行させられる実行役の若者は悪い大人の捨て駒でしかな。

【決して、甘い誘いに乗るな】

当然のことだが、こんなに不景気な時代に、簡単にお金が稼げる仕事などない。そんなうまい話があるはずがない。さらに、3年前にタイで36人が摘発されたときに他の半分は逃げたと言われている。したがって、まだ指示役にマインドコントロールされている実行役が多くいるし、リクルート役も存在している。今までと違う罠で誘ってくるなど、もっと巧妙な手口の詐欺・強盗・殺人グループができていかもしれない。不景気のために貧困な若者が増え判断力が鈍ることが予想されるが、決して甘い誘いに乗らないように。

また、「自分は騙されない」とうぬぼれや根拠のない自信を持っている人ほど危ない、引っ掛かりやすいというデータもある。相手は話術に長けており、「あなたは大丈夫だけど、引っかかってしまう人がいるんだよね。」などと言われると、おだてられ気分がよくなり、この時点で、もうすでに相手のペースに載せられている。あとは、言葉巧みにおだてられ誘導され、気が付けばどっぷり遣っていて抜け出せない状態になってしまう。

【脳科学的には】

視点は少し変わるが、人は刺激を求めて行動をするものだ。脳内でのドーパミンの分泌に快感を覚え、刺激を求め行動する。最初は軽いのだが、次第にエスカレートし、普通では我慢できなくなり新たな冒険をしたがる。また、犯罪でも同様に、何回か繰り返すと慣れてきて罪悪感が薄れ「作業」になってしまうらしい。常に、自制をするのはあなた自身である。

【自己肯定感の低さと稚拙さ】

先日、スシローで高校生の不適切な行為があったが、企業は保護者と高校生の謝罪を一切受け入れず、警察に被害届を出し、生徒は犯罪者として社会から指導を受けることになった。刑事罰としては3年以下の懲役または30万円以下の罰金で済むかもしれないが、民事罰として損害賠償額は少なくとも3億、30億いや300億とも言われている。仮に、スシローの年収益が3000億とすると、客が10%減れば300億の損失になる。さらに客が気持ち悪くて行けないと言って企業のイメージダウンにつながり、株価も暴落したようであり、賠償額は天文学的数字である。

高校生が「ウケ」を狙って「ノリ」でやったのかもしれない。友達とつるんでやっているうちに、つい自分はすごいと友達に自慢したくなり行為がエスカレートし、止めろと言われてなおさら、虚勢を張ってしまったのかもしれない。しかし、世間は決して許してくれない。あまりに常識がなさすぎる行動だ。この高校生は退学したそう。昔なら頭を小突いてすんだ事件が、現代の社会では全国民に暴露され、取り返しがつかない大きな罰を受ける。

また、はま寿司でも、高校生が共有のガリを自分の箸で食べている動画に対して企業は断固たる措置を取るようである。映像から、高校生が着ていたユニフォームから高校名や部活動名、生徒名まで一気にさらされてしまった。学校には非難とクレームの電話が殺到し、学校の担当者は釈明に追われ、学校を休んでいる。また、その部活動は活動停止になっている。

最近、愚かな犯行に加え、SNS上の画像の掲載について注意や警告がなされているにもかかわらず、蜚行が納まらず、若者の良識の欠如が際立っている。自己肯定感の欠如、思考力の無さ、まともな善悪の判断ができない幼稚さ・愚かさ、非常に情けなくなる。

また、メンズ地下アイドル（通称メン地下）に貢いだ女子中学生のニュースがあったが、「推し活」のために借金をし、親の金を盗み、パパ活までして金を稼ぎ、「推しメン」に貢いだ。なんとグッズやシャンパンを買うなどして300万円も貢いでしまった女子中学生も

いた。10代の女の子は恋愛経験も少なく、優しく声を掛けられると本気になってしまうらしい。他人の忠告は一切聞かず、話せば喧嘩になり、ますます自分の殻に閉じこもる。貢がせる男の思うツボ。それでも、女子生徒は、自分は幸せだと思っており、心を奪われ周りは一切見えない。中毒とはそういうものだ。一方、貢がせた男は金を出す「コマ」としか考えていなかった。この場合は、女の子の自己肯定感の低さと家庭が面白くなかったという家庭事情が問題であったが、愛情に飢えている子どもは、優しい言葉に簡単にマインドコントロールされてしまうことが容易に理解できる。

【ドーパミンの使い方】

SNS、ゲーム、麻薬、ギャンブル等はすべて、エスカレートしていかないとドーパミンが出ずに、刺激を追求し続けることになる。「依存症」などという簡単な言葉ではなく「中毒」である。イメージを和らげるように連想させる言葉を使うのではなく、悪は悪であるということをはっきり伝える言葉を使うべき。「犯罪実行役」とか、闇バイトでなく「闇犯罪」とか、スマホ依存症でなく「スマホ中毒」、「麻薬中毒」、「アルコール中毒」など。「依存症」などと言うからいつでも抜け出せるような錯覚に陥るが、ボロボロになるまで抜け出せないことをはっきり言うべきだと改めて思う。

これは、いじめや、SNS上の誹謗中傷や悪口、犯罪の場合も同じで、最初は軽いがだんだん悪くなり過激になっていく。是非、君たちには、正しいドーパミンの使いかたをしてほしいものである。勉強、学習、スポーツ、芸術・芸能などで自分を高めるような活動にドーパミンの高まりを感じ、極めてほしいと思う。

【最後に】

最後にもう一度言いますが、SNSなどを見て「高額バイト」などの言葉に騙されないように。甘い誘いに乗らないように。君たちを破滅に導く罠は身近なところに転がっている。最初は悪だと気づかずに軽いバイトだと勘違いさせられるような罠であり、犯罪にいったん手を染めると、破滅に向い、警察に捕まるまで永遠に続く。

動機が何であれ、また自分の意思に関係なく騙されてやらされたとしても、犯罪を犯したことは一生消えることはなく、犯罪者として生きていかねばならない。犯罪から立ち直るのは非常に難しく、立ち直ろうとしても邪魔する者がやってくる。金品を要求し、脅迫する輩（やから）がどこからかやってくる。「前科者」の闇名簿まであり、一生断ち切れないと言っても過言ではない。後悔しても誰も何もしてくれず、世の中はそんなに甘くないのが現実。

【我々の「建学の精神」は最強！】

本校の「建学の精神」の中心に「節義を重んずる人格の育成」とあります。「節度のある礼儀・正義」とは、自己を律し、誠実に、素直に、謙虚にふるまい、相手を尊敬し、相手に感謝し、信頼を大事にすることです。どうか、信念と責任をもち、逞しく生きてください。

(BS フジの PRIME NEWS や福井新聞などの情報をもとに作成しました。)